

UDi デザインワークショップ 報告書

第1回 まち歩きからUDを感じ、考え、発想する 「武蔵を共に楽しむ」

日 時：2017年7月8日(土) 10:00~19:00
場 所：ITビジネスプラザ武蔵 4F サロンスペース
参加者：41名 ※講師・運営スタッフ含む
主 催：一般社団法人ユニバーサルデザインいしかわ

プログラム：

- オリエンテーション
- チームミーティング
- フィールド調査
- 気づきのマッピング・デザイン企画
- 発表会

「UDiデザインワークショップ」では、
視覚や聴覚に障がいのある方や車椅子ユーザーと共にフィールド調査を行い
様々な気づきをマッピングし、誰でも利用しやすく
暮らしをより豊かにするデザイン企画をまとめ上げます。

各チームにはセンシティブなユーザーを交え、
武蔵のまちをフィールドに「共に考え発想する」ことを体験しました。
企業勤めの方や県外参加者、大学生など多様な人々が集い、ワークショップを開催しました。

はじめに

みなさんこんにちは、これから今年の4月に発足しました一般社団法人ユニバーサルデザインいしかわ主催の、第1回ユーザー参加型デザインワークショップを開催いたします。まずは、大勢の皆様にご参加いただいたことを感謝致します。ありがとうございます。

ユニバーサルデザインは、「多様性と共生」へのデザインと表現することもできます。できる限り人を排除しない豊かで魅力的な“ものづくりやことづくり”を進める。それは、私たちの時代における地球的なテーマでもあります。「一本のスプーンからまちづくりまで」多様な領域における創造的なユニバーサルデザインが進行しています。

第1回ワークショップのテーマを、まち歩きからUDを感じ、考え、発想する。そして、キーワードを「武蔵をともに楽しむ」としました。武蔵は、交差点を軸として、歴史的、現代的なエリアが集積している金沢の魅力あるエリアの一つです。ユニバーサルデザインの切り口から、武蔵に潜在する様々な課題を探り、創造的なデザイン提案に挑戦してください。

AからDの各チームには車椅子のユーザさんや視覚障害のユーザさんが参加しています。チームメンバーが一体となってデザインの課題を感じ、考え、発想して、魅力的でリアルなデザインを提案してください。そして、ユーザー参加型ユニバーサルデザインの醍醐味や可能性を体感してください。

一般社団法人 ユニバーサルデザインいしかわ
理事長 荒井 利春



1. タイムスケジュール

オリエンテーションでは、講師からタイムスケジュールとワークショップで注意するポイントを説明。チームミーティングでは、対話を通して、互いを知る時間を設けました。

- 10:30-11:20 **30分** **オリエンテーション**
- 10:30-11:20 **50分** **チームミーティング**
自己紹介、ユーザーさんを知る、フィールド調査ルート決定
- 11:20-14:00 **160分** **フィールド調査**
時間内に各チームで昼食を済ませる
- 14:00-16:30 **150分** **気づきのマッピングとデザイン企画**
各チームでの作業、講師によるアドバイス
- 16:30-17:30 **60分** **プレゼン準備**
武蔵を共に楽しむデザイン企画をまとめる
- 17:30-19:00 **90分** **発表会**
各チームプレゼン（1チーム8分）
講評（武蔵周辺エリアパースン、講師から）
事務連絡

2. オリエンテーション

ユーザー参加型デザインワークショップを創造的な活動にするための肝や、フィールドから創造するデザインの醍醐味について講師の説明によるオリエンテーションを行いました。

10:30-11:20 **50**分 チームミーティング

- ・対話を通じて互いを知り、「武蔵を共に楽しむ」文脈のもと、ユーザーさんの日々の暮らしなどについて質問。
- ・ユーザーさんとチームで、武蔵を共に楽しむメニュー・スケジュール・ルートを検討、決定。

ユーザー参加型フィールド調査の肝 = マニュアル的に「まち」と「ユーザー」を見ない

- あらゆる気づきをメモし、違和感を逃がさない
- 何か変だな？と感じたら、立ち止って考える。 ● その場での質問、議論、記録が大切。
- 切実感に丁寧に向かい合い大変さなどを現場で記録すると共に、解決策やアイデアがないか考える。

観察と記録の肝

- ユーザーさんの所作の質感を大切にしよう心掛ける（できるか・できないかという点だけで見ない）。
- 動作の始点から終点までを通して見る・感じる。 ● 現場は一期一会。
- 遠・中・近のフレームで見る、感じる。 ● 接面に目を向ける。

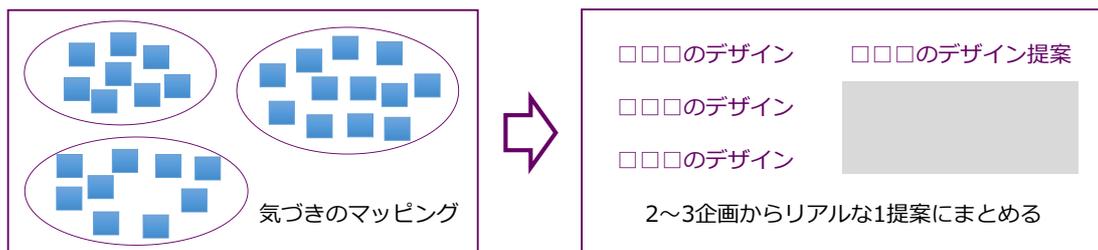
11:20-14:00 **160**分 フィールド調査

- ・観察と記録。 ※メモ、スケッチ、静止画、簡単な動画など
- ・時間内に各チームで昼食を済ませる。昼食もフィールド調査の大切な場面。

14:00-16:30 **150**分 気づきのマッピングとデザイン企画

「武蔵を共に楽しむ」ための 爽やかな Desing for All の 原型創出 を目指す！

- ・デザインの対象は「一本のスプーンからまちづくり」まで、サービスや情報・ソフトも含む。



17:30-19:00 **90**分 発表会

各チームのデザイン提案

《講師プロフィール》

一般社団法人ユニバーサルデザインいしかわ 理事長 荒井利春

Arai UD Workshop 荒井利春実験工房 主宰 / 金沢美術工芸大学 名誉教授 / プロダクトデザイナー

1980年代より、体の機能に障がいのあるセンシティブなユーザーと日用品や家具、住宅設備などのデザインプロジェクトを持続。グッドデザイン賞など多数受賞。また、医師や看護師、患者が参加する病院のデザインコーディネーションや公共建築のユーザー参加型デザインを進める。2004年から、国際ユニバーサルデザイン協議会のユーザー参加型デザインワークショップの監修を続ける。



3. 各チームのデザイン提案

A みんなで楽しめる、むさしクロスピア



ユーザープロフィール

須永 沙紀 さん

頸椎損傷【車いす】

趣味はサッカー観戦と買い物です。今回のワークショップに参加して、車いすを利用している人だけではなく、みんなが交わり合うまちづくりができる可能性を感じました。

チームメンバー構成



車いすユーザー1名



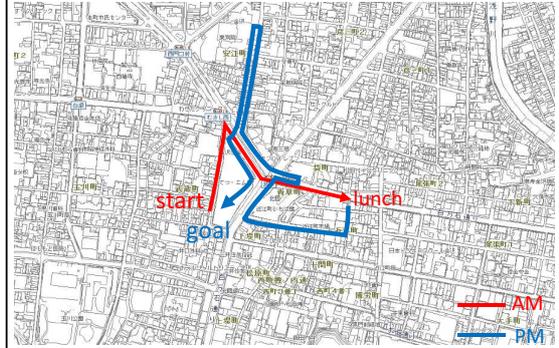
メンバー6名



学生サポーター1名

フィールド調査ルート

- 加登長本店で食事
- 近江町市場
- むさしクロスピア
- エムザを通りゴール



フィールド調査・気づきの共有

- 車椅子ユーザーにとっての問題点ピックアップ ①移動 ②食事 ③店
- 歩道、点字ブロック、坂、段差、場所の位置関係、
- 信号、エレベーター、駐車場、トイレ など
- 気づきの共有結果： **移動しにくい、店に入りにくい**



デザイン提案

「むさしクロスピア」についてのデザイン提案/前・後の変化を"寸劇"で表現

●【付き合って1周年記念日】変化前のむさしクロスピア

- ・観光ガイドや認定マーク設置なし
- ・車いすで入ることができるお店がわからない → 食事をしないで帰る…
- ・食事を楽しむことを諦めてしまう → 行動範囲に制限がある…

《デザイン提案》

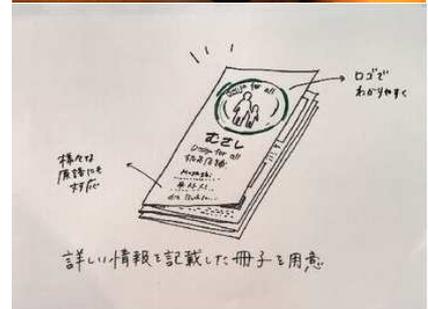
「移動しにくい、店に入りにくい」という問題を解決するため、

むさしクロスピア(地下道)に観光ガイドや案内所を設置

Design for All のマップや認定マーク店の冊子を用意

●【付き合って2周年記念日】変化後のむさしクロスピア

- ・観光ガイドや認定マーク設置あり
- ・案内所で希望を相談するとおすすめのお店を教えられる
- ・マップを見ながら、車いすでも行ける推奨ルートで移動し認定マークのレストランで記念日デートを楽しむことができ満足！



B 寄り合いのムサシをデザインする



ユーザープロフィール

弥村 節子 さん

視覚障害【全盲】

趣味は、目が不自由になってから始めた陶芸です。3年前から短歌教室にも通っています。自分の気持ちを表現できるのが嬉しいです。

チームメンバー構成



視覚ユーザー1名



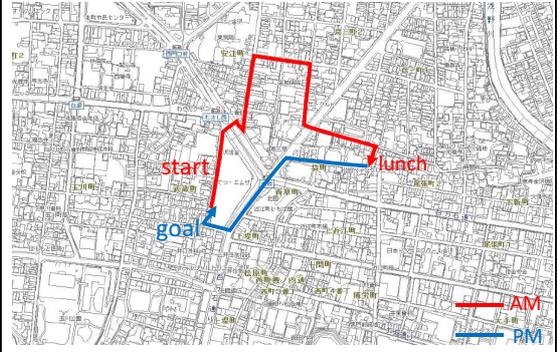
メンバー6名



学生サポーター2名

フィールド調査ルート

- 横安江町通り
- 「エバンス」で昼食
- 武蔵横断歩道（時間内に渡れず）むさしクロスピア
- エムザを通りゴール



フィールド調査・気づきの共有

- 全盲になった時に引きこもったが、今はまちに出ておしゃべりを楽しむ
- 皆で"寄り合える"武蔵をデザインしたい
- 横安江町通り＝融雪装置から中央に傾斜があり歩きにくい。休憩場所がない
- 武蔵横断歩道＝横断歩道では時間内に渡ることが困難。地下通路を利用



デザイン提案

横安江町通りと武蔵横断歩道・むさしクロスピア 連携することで相乗効果をもたせたい

《デザイン提案》①横安江町通り（金澤表参道）

多様な人が行き交う場所になるよう、情報発信やイベントを行う

■ 情報発信

- ・通りのホームページ
- ・フリーペーパー
- ・twitter や facebookなどのSNS
- ・ロコミネットワーク
- ・メールサービス（例：金沢防災ドットコム、福祉センター）

■ イベント

- ・フリーマーケット
- ・趣味を共有できるイベント etc…



《デザイン提案》②武蔵横断歩道・むさしクロスピア（地下通路）

現在地を案内する「音声ガイド機能」を手すりに内蔵、
コンシェルジュムサシで障害を持つ方のガイドや旅行者の案内などを行う

■ 現在の武蔵ヶ辻をつなく地下通路

現在地を案内する音声ガイド機能を手すりに内蔵



C 目的地としても機能する、武蔵地下情報発信基地



ユーザープロフィール

中村 裕 さん

頸椎損傷【車いす】

パソコンを触ることが好きで、趣味は料理です。時間があるときには、買い物に行ったり、自分なりのユニバーサルデザインチェックをしています。新しい施設が建った時には出掛けたくります。

チームメンバー構成



車いすユーザー1名



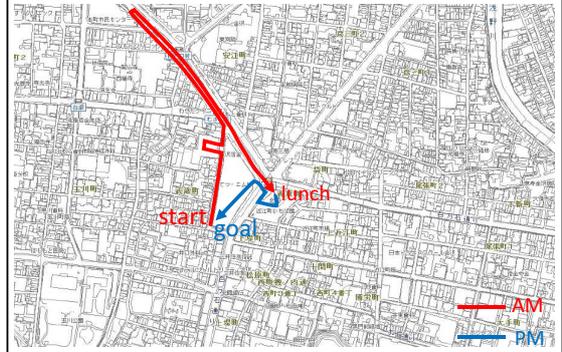
メンバー6名



学生サポーター1名

フィールド調査ルート

- エムザ・スカイパーキング→武蔵地下駐車場
- むさしクロスピア→近江町市場地下で昼食
- 近江町市場→むさしクロスピア
- エムザを通りゴール



フィールド調査・気づきの共有

- 地下に行きたい → EVを探したが故障中 → 反対側のEVへ移動
- むさしクロスピア → 車いすの視点では案内看板が見えにくい
- 課題の整理：**設備のバリアフリー化、情報の充実**
円滑なコミュニケーション、わかりやすいナビゲーション



デザイン提案

武蔵地下情報発信基地（地下道全面デジタルサイネージ）

- 【情報発信の場を設置したらどうか】
 - ・ どこに設置するのが望ましい？
 - ・ むさしクロスピアの床面や壁面を有効活用できないか？

《 デザイン提案 》

武蔵の中心地である地下道を単なる移動手段の場所だけでなく、**情報を取得できるコミュニケーションの場=目的地として活用し、人々が行き交う交流の場「武蔵地下情報発信基地」を生み出す。**

● 【地下道全面デジタルサイネージ】

- ・ 地下の床や壁を利用してデジタル情報を発信
- ・ 車いすでも行けるのか、
トイレ情報や観光地の天気・混雑具合など、
多様な人の目的に合わせた情報を発信できる情報発信基地に！

地下道全面デジタルサイネージ



D 多様な人々が集う、憩いの場をデザインする



ユーザープロフィール

荒井 絵美 さん

頸椎損傷【車いす】

趣味はショッピングです。
障がいの有無に関係なく、様々な
人が安心して出かけられる所が増
えると嬉しいです。

チーム メンバー構成



車いすユーザー1名



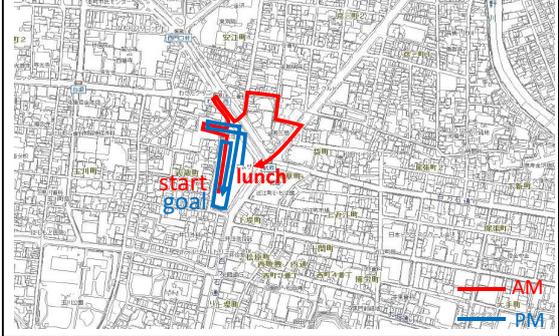
メンバー6名



学生サポーター1名

フィールド調査ルート

- エムザ・スカイパーキング→武蔵西交差点→引き返す
- 横安江町商店街→武蔵交差点
- ANAホリデイ・イン金沢スカイ内バイキングで昼食
- PMスカイパーキングで車いす用の車見学
- エムザ内を通りゴール



フィールド調査・気づきの共有

- バイキングの位置が高く料理が見えない →天井に鏡を設置しては？
- E Vを探し案内通りに行くと階段が →助けを呼べるシステムは？
- トイレ位置など分かりにくい →スマホアプリでマップ連動
- **ひとりでの長時間移動が非常に疲れる**
- ゆるい傾斜・移動時の段差・毛足の長いじゅうたん・点字ブロックなども移動の妨げに



デザイン提案

木漏れ日を感じさせる、温かみのある憩いの休憩所

- 【ひとりでの長時間の移動は「思った以上に」非常に疲れる】

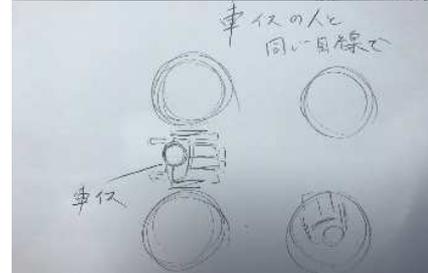


《デザイン提案》

様々な人々が使える「休憩所」を設置。人が集まる空間を生み出す。

- **木漏れ日を感じさせる、温かみのある憩いの休憩所**

- ・ 多様な人々がどの角度でも座れるよう丸い椅子を車いすが通れる幅で設置
- ・ バックしたりUターンの必要がないよう、そのまま通り抜けられる導線に
- ・ 木漏れ日を感じる屋根やガラスなど設置し、多様な人が集える場所を創造



おわりに

各チームの皆さん、魅力的なプレゼンテーションをありがとうございました。フィールド調査から、気づきのマッピング、デザイン課題の抽出、具体的なデザイン提案までを7時間でまとめるのはとてもハードな作業です。しかし、各チームはユーザーさんと一体となってまとめ上げました。具体的なデザイン提案に到るまで、豊かなディスカッションやチームワークが展開されました。その過程そのものが、まさにユニバーサルで創造的な人間関係の場となっていました。

各チームから「みんなで楽しめる、武蔵クロスピア」「寄り合いのムサシをデザインする」「目的地としても機能する、武蔵地下情報発信基地」「多様な人々が集う、憩いの場をデザインする」という具体的なデザイン提案がなされました。なかなか魅力的であるとともに切実な課題でもあります。それぞれの提案を横糸で編むと、「武蔵エリアに、多様な人が集える憩いの場を兼ねた情報発信基地をつくる」そのコアな場所として地下のクロスピアを活用しようという提案となります。そこにはコンシェルジュがおり、対話とデジタル情報を活用したプレゼンテーションやインフォメーション機能が備わっている。そして、憩いの場のサブスペースを武蔵エリアに配置していく。さらに、ユニバーサル対応店舗の拡大やその情報やマップを提供する。実効的で広がりのある魅力的なデザイン提案が浮上ってきます。これは、2020年に向けて世界からの多様な人々を受け入れる武蔵のあり方を考える上で、刺激的な提案といってよいでしょう。

今回の経験をぜひ、皆様の日常の「ものづくり、ことづくり」の現場で応用展開されることを期待いたします。私たちUDiは様々な形での連携や支援のあり方をともに追求していきたいと願っています。今後どうぞ宜しくお願いいたします。

一般社団法人 ユニバーサルデザインいしかわ
理事長 荒井 利春



多くの方々にご参加いただき誠にありがとうございました